

令和5年度 建設文教委員会行政視察報告書

令和5年10月18日（水） 香川県坂出市
「PFI方式を活用した学校給食センターの運営について」

令和5年10月19日（木） 兵庫県明石市
「指定管理者及び愛護会における公園管理について」

上記の視察項目について全委員の報告書を添付し報告とします。

建設文教委員会	委員長	いとうひろし
	副委員長	鈴木 智和
	委員	こんどうのぶお
	委員	服部 龍一
	委員	武谷 としお
	委員	毛受 明宏
	委員	清水 義昭

建設文教委員会
委員長 とうひろし

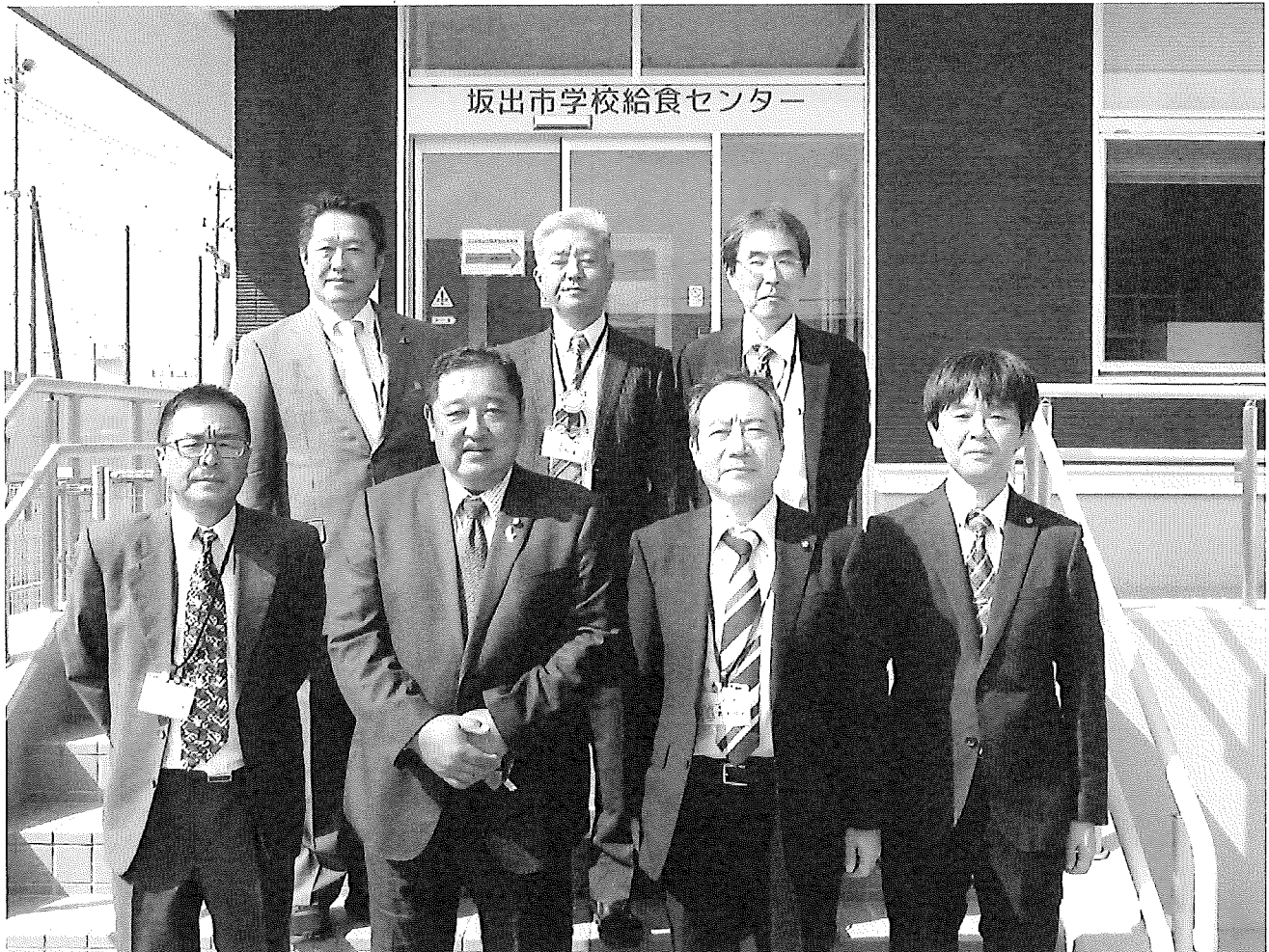
建設文教委員会 行政視察報告書

視察日程 2023年10月 18日水曜日～19日木曜日

視察先 ①1日目 香川県 坂出市 13時30分
PFI方式を活用した学校給食センターの運営について
②2日目 兵庫県 明石市 9時30分
指定管理者及び愛護会における公園管理について

参加委員 鈴木智和・毛受明宏・服部龍一・武谷としお・清水義昭・こんどうのぶお 計7名

事務局 寺島課長補佐・2日目の9時より伊藤経済建設部長



① 香川県坂出市の概要

坂出市は、香川県のほぼ中央部に位置し、東は高松市、西は丸亀市・宇多津町、南は綾川町、北は、多島美を誇る瀬戸内海が広がり、瀬戸内海を隔てて岡山県に対しています。高松駅からは15分、空の玄関口高松空港からも車で30分です。

人口 50,624 人(令和 2 年国勢調査確定値)

世帯 21,272 世帯(令和 2 年国勢調査確定値)

坂出市は、かつては「塩のまち」「塩の積み出し港」として栄え、戦後の高度経済成長期には、塩田跡地を活用した港湾開発や番の州地区の埋め立て等により、全国有数の「港湾工業都市」へと変貌を遂げました。

その後の瀬戸大橋開通や四国横断自動車道の整備等により、現在では、本州と四国を結ぶ鉄道網及び高速道路網の「要衝」として、その存在価値を高めており、次代を担う若い世代から「住みたいまち」として選ばれる新たなまちづくりを進めています。

本市には、歴史と伝統に彩られた行事や祭り、暮らしに潤いを与えるイベントやスポーツ行事が四季折々にあります。なかでも8月に開催される「さかいで大橋まつり」は、昭和41年から始められた市民総参加のお祭りで、瀬戸大橋パレードがあり、最終日には、坂出駅前広場に10台以上の太鼓台が集まり、1台150人の担ぎ手による「かきくらべ」は、見るものすべてを陶醉させる重厚さと神秘さがあります。

視察場所 香川県坂出市学校給食センター(坂出市林田町 4285-234)

敷地面積 約 5,000 m²

供給能力 約 4,000 食/日

事業方式 学識経験者等で構成される PFI 事業推進委員会において、優先交渉権を決定。令和2年に契約を終結し、令和4年9月より維持管理と運営業務を実施する BTO 方式にて運用を15年契約で開始した。



↑ 調理機を2階から見た様子
←坂出市学校給食センター

Q1. PFIを導入して、良かった点は

- ・調理、施設管理等専門業者への委託が一括で行え、業務ごとに委託検討を行わなくてよくなりました
- ・修繕の際にもその都度、業者依頼を入札で行う必要がなく、業務軽減された。
- ・施設の管理面においても専門家のお管理のもと従来では把握しきれないポイントについても定期的に点検を行うことが可能となった。

PFIを導入して、課題となっている点は

- ・契約内容が複雑かつ膨大のため、全体の把握に苦勞する。
- ・15年の長期契約の為、社会情勢等の変化により対応方法を契約の段階でできる限り明確にしておく必要がある。

Q2. 施設が更新されたことにより、調理時間や人件費の削減につながっているか

- ・自校調理からセンターでの一括調理となり、比較は難しい。
- ・費用は開業より1年経過し、実績との比較、効果検証が必要と考えているが、コロナ感染症やウクライナ情勢、円安などの社会情勢の変化が大きく、検証方法にちて検討を行っている段階である。

Q3. 食材の価格や電気料金等の高騰にどの様に対応しているか

- ・センター化により「削減されたコスト分を物価上昇分に充当している。
- ・一括調理によるコストメリット
- ・自前で炊飯が可能になり、米販購入費の削減
- ・以上3点を今後の対応として事業者と協議をおこなっていく。

Q4. 賄い材料の調理方法と地元食材の使用率や調理方法は

- ・学校給食会が毎年、登録業者を募り決めて入札方式にて食材会が調達している。
- ・地元食材の一部は随意契約にて調達している。
- ・JAで地元特産の農作物を九品目指定して納品してもらっている。

Q5. 給食について、児童・生徒、保護者からの要望にどの様に対応しているの

- ・栄養教諭から提案された献立を給食会・校長・調理責任者等で吟味している。
- ・毎月献立の振り返り意見が各幼・小中学校から届いており、情報をもとに味付けや量の微調整をおこなっている。さらに年一度のアンケート結果を分析し、センター内で共有し献立や調理に反映させている。

Q6. 調理するうえで心がけていることなどはあるか

- ・毎週、栄養教諭と調理担当者が振り返りと打ち合わせを行っている。
- ・食物アレルギー担当者はきめの細かい対応を行っており、栄養教諭も立ち会っている。
- ・異物混入対策は食材の目視や清潔な服装や身なりに細心の注意を払っている。

- ・食品ロスがないように出来るだけ手切りで手作り感をだしている。
- ・普段より各自の健康管理に留意し、ケガをしない事や食中毒を出さない事。

Q7. フードレスキュービークルの災害時の活動内容と、災害時以外での利用方法は

・災害時での炊き出し等の支援を事業者との協定を終結しており、太陽光パネルや携帯充電コンセント・トイレも備えているので、

- 「讃岐うどんつるつるツデーウォーク」に参加してうどんを提供した。
- 「坂出市東部地区防災イベント」に参加して啓発活動を行いました。



給食センターの2階通路からの見学の様子

まとめ

本市において、新給食センター準備室も開設されており、令和9年の9月に運用開始予定となっております。候補用地も発表され約 7,000 m²の面積です。

3幼稚園・9小学校・4 中学で 3,400 食を提供している(小学校は給食無償化)

民間もノウハウや実績を用いて「PFI」事業に取り組む予定ですので新たな建築をして運用を始めて1年の最新設備の整った、施設へ見学に行きました。運用から約1年を経過したうえでの効果や成果等を伺いに参りました。

新しい施設の駐車場は職員の車、約30台の車が駐車されておりました。職員は70歳まで雇用しています。業者や配送トラックは入り口と出口があり建物を取り囲むような構造の一方通行で敷地面積は 5,000 m²でした。

建物は 2 階建てで、2 階からは 1 階の調理場全体が見れる設計になっており、調理場内の匂いを嗅ぐことが出来る穴もありました。驚いたのは、一度に多くの魚を焼く機械がり、感動しました。以前のニュースで子ども達の「魚離れ」が報道されており、豊明市にも是非とも焼き魚を子ども達に提供したいと思いました。

フードレスキュービークルも素晴らしいアイデアでした。給食事業だけでなく災害時への配慮もされており、事業者への感謝ですね。災害時にも避難所としても開設できると感じました。

本市において、今後のモデル施設になるような施設でした。

② 兵庫県明石市の概要

明石市は、兵庫県の南部に位置しています。東西の距離は 15.6 キロメートル、南北は 9.4 キロメートルと東西に細長い形で、面積は 49.42 平方キロメートルあります。市の東側と北側は神戸市に、西側は加古川市、播磨町、稲美町に接していて、南側は瀬戸内海に接する海岸です。

また、市の東部には日本の時間を決める基準となる、東経 135 度日本標準時子午線が通っています。温暖で雨が少なく、年間の日照時間が 2196.1 時間で、県内 2 番目に晴れの日が多いのが特徴です。およその最高気温が 33 度から 35 度、最低気温がマイナス 6 度から 4 度で、年間の平均気温は 14 度から 15 度、年間降水量も 1,000 ミリ程度と快適に住むことができる土地です。

令和5年7月1日現在、305,498 人で世帯数は 136,943 世帯

子育て支援に力を入れており10年連続で人口が増えている。また、帰りたい街2021年1位でした。子育てに公園は必須と考え、子どもを核とした町まちづくりをしており、10年間で60公園を開設してきた。

視察場所 9時30分 兵庫県明石市役所で座学 ・ 10時10分材木町公園・わんぱく広場
はバスより視察 10時50分 石ヶ谷公園の徒歩視察と中央体育館での座学

視察の目的 指定管理者及び愛護会における公園管理について

公園についての概要

指定管理	10公園・緑地	
業務委託	20公園	
公園愛護会	280公園・緑地	
シルバー	19公園	
直営	141公園	計470公園



明石市役所にて 座学

指定管理者による管理運営方法等の説明

- ・指定管理については平成16年から3施設で導入しており、現在は10施設を管理している。
- ・管理運営上、市が管理するより費用が削減されている。また一元化も図られる。
- ・駐車場等の利用料収入等が見込まれる。
- ・民間のノウハウでイベントやスポーツ教室が開催できるようになった。
- ・土日も公園内にある事務所に常駐しており、利用者のサービス向上になっている。
- ・7公園の追加管理をしているが、新たに16公園を追加で管理することを検討する。

愛護会の活動と課題

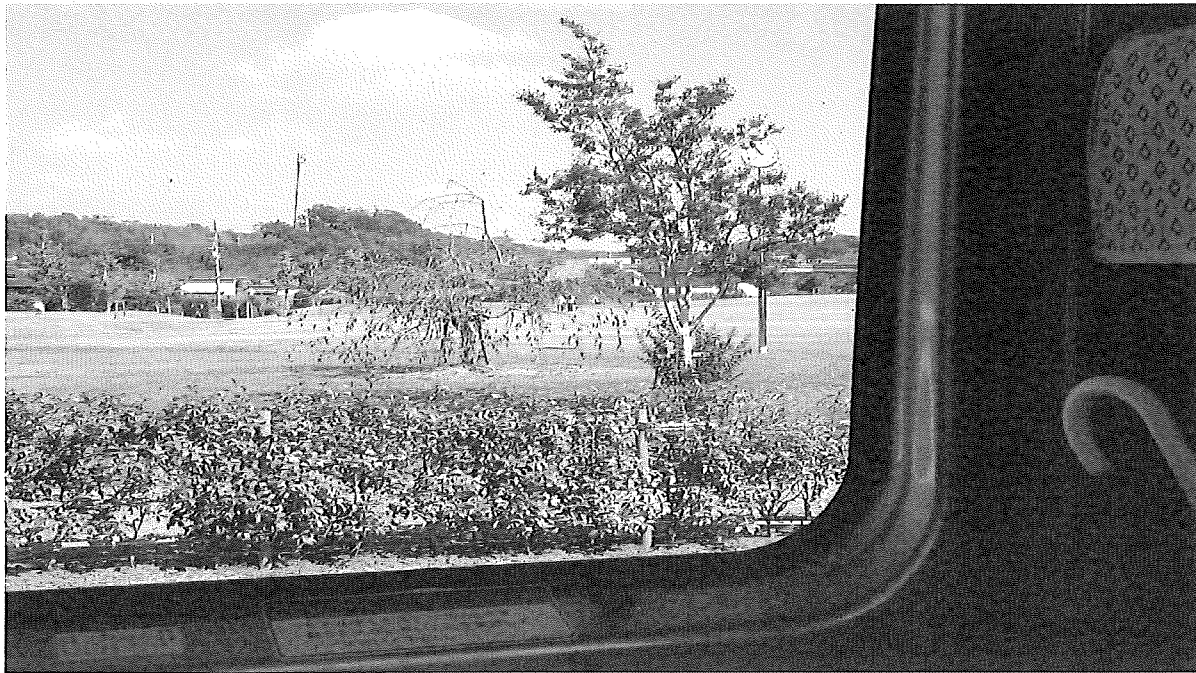
- ・活動は愛護会によってまちまちだが、大体月1回以上の清掃と年2回以上の草刈りの活動をしている。10名前後の方が参加。
- ・年に1回、報告書を市に提出することで作業の軽減もしている。
- ・地域のつながりや困りごとや相談事などのコミュニケーションの場としての居場所づくり。
- ・会員の多くは高齢者で、会員数が減少している。中には解散したところもある。
- ・新たな若い方の会員を募集しているが、入会される方は少ない。
- ・子ども会が運営している愛護会もありますが、活動の主体は高齢者となっている。
- ・公園利用者に対し行き過ぎた指導をすることもある。
- ・大木等の枝切等に苦慮している。

愛護会活動のメリット

- ・それぞれの公園が地域の方の運営で常にきれいに保たれている。
- ・会員相互の居場所として郷土愛も育ちやすい環境となっている。
- ・市の情報や地域の情報に対応が早く行える。
- ・子ども達にとっても公園愛護会の活動は「見守り」の効果もある。

インクルーシブ遊具導入による利用者の反応は

- ・障がい者の団体や近隣の施設の方の利用が増えた。
- ・保護者の方や施設の方・介護者からは安全面が工夫されており評価できるとの声がある。
- ・行政は新たに広げる計画はないが、経過を見守りながら利用者と協議していく。



わんぱく広場

まとめ

明石市は全国でも子育て施策において、注目をされており、公園も子育て支援事業において重要な位置を示しており、1人当たりの公園面積は、7.14㎡/1人です。

芝生のための広い公園「わんぱく広場」は駐車スペースも350台あるが、土日は満車とのこと。中核都市として10年連続の人口増と8年で32億円の税収増加・生活満足度は関西1位で全国では2位となっている。「まちのみんなで子どもを見守る」姿勢がうかがえる。

子ども食堂も6年間で11か所から46か所に広がりすべての小学校区 28 学校に2か所近い数があるのにはすごく驚きました。

公園も市民サービスの 1 つで子育て世代を中心に人気が集まっている。公園愛護会の課題もあるが、本市においても設立を考えています。まずは地元の公園から有志を募り試してみたいと考えています。有償ボランティアも同時に進めていきたい。

視察に伺い、明石の風土には市の職員・団体等の想いが伝わってきました。職員の方からは、私の歩道等の草刈り作業をホームページで見たらしく、ほめられました。地元の公園は地元で行うという流れを本市でも実践していきたいと強く感じました。子どもが遊ぶ公園を見守りながらの愛護会活動は有意義で、本市も公園とその駐車場の増設拡充政策を提案していきたい。全国で広がりのある、公園愛護会を本市でも実現するために頑張ります。

令和5年度 建設文教委員会行政視察 報告書

鈴木 智和

【1日目】

- ・視察日：令和5年10月18日(水) 13:30～15:30
- ・視察先：香川県坂出市学校給食センター
- ・施設概要：所在地/坂出市林田 4285-234 延床面積/2,789.00 m² 敷地面積/5,020.29 m²
- ・構造：鉄鋼造2階建
- ・開業：令和4年9月1日
- ・供給能力：約4,000食/日
- ・事業方式：BTO方式
- ・視察の目的：PFI法に基づき実施した学校給食センター整備運営事業について公募型プロポーザル実施した経過と、導入後の課題等について

■PFI方式を導入した経緯

<現状>

- ①11の学校併設の調理場、1ヶ所の共同調理場で運営していたが、大半の施設が建設から30年以上が経過し、老朽化が著しかった。
- ②調理場は「学校給食衛生管理基準」を満たしておらず、施設・設備の大規模改修を行わなければならない。
- ③全ての自校方式の学校で民間委託に限界、新たに委託していく事は困難と想定、また、1食あたりに係る費用も高騰していた。

<予想される導入後の利点>

- ①PFI事業の採算と実際の提供食数が近い見通しであった。
- ②PFI事業の実績企業に参加意欲があり、競争環境が確保される。
- ③サービス水準・品質の向上。
- ④リスクの明確化による安定性の確保。
- ⑤事務負担軽減と給食事業の長期継続性の確保。

■PFI方式を導入後の現状

<よかった点>

- ・都度、業者依頼や入札を行う必要がなく、市の事務作業が軽減された。
- ・専門業者による管理の為、把握しきれないポイントについても定期点検が出来る。
- ・削減されたコスト分を物価高騰分に充当出来た。
- ・市の財政負担額が約5.5%削減されるとの結果が得られた。

<課 題>

- ・契約内容が複雑。
- ・全体の把握に苦勞する。
- ・15年の長期契約の為、社会情勢の変化時に再協議の必要がある。
- ・リスク分担や対応方法を契約の段階で明確にしておく必要がある。

<そ の 他>

- ・物資調達を入札方式で行っている。
- ・地元食材の一部は、随意契約にて物資調達を行っている。
- ・地場産物使用率は新給食センター設立後伸びている。
- ・年に1度(9月)児童生徒や教職員へ給食についてのアンケートを実施、献立や調理に反映している。
- ・毎週栄養教諭と調理担当で振り返りと打ち合わせを行っている。
- ・食物アレルギー担当者は個別にきめ細かい対応を行っており、栄養教諭が必ず立ち会っている。
- ・食品ロスが出ないように、芋や人参の皮は使用、出来るだけ手切りで手作り感を出している。
- ・普段から健康管理に留意し研修会も実施している。

■視察の所感

豊明市において令和9年オープン予定の仮称新給食センターの準備が予定候補地の住民説明会等も始まり、PFI手法を採用し運営している香川県坂出市学校給食センターの視察は民間のノウハウの活用を現実に視察できた。施設2階の見学者用通路や会議室、調理実習室、給食展示スペース等を設けていて給食を調理して配送するだけの施設感を払拭している。食材の仕入れに地場産物を取入れながら食材の選定がなされ、食べ終わった食器の洗浄まで徹底した衛生管理がなされている。本市新給食センターの立地環境の調査についても徹底して行うべきと考える。

坂出市学校給食センターには、災害発生時に備蓄品を利用して炊き出し等の支援にレスキューフードビークルと言う自走式災害救援車がある平時は委託事業者の自主事業として活用している、実際の活動実績はまだないとこの事だが本当に必要なのか疑問が残った。



【2日目】

- ・視察日：令和5年10月19日(木) 9:30~11:45
- ・視察先：兵庫県明石市役所 明石市役所(座学)→石ヶ谷公園(視察・座学)
- ・視察の目的：指定管理者及び愛護会における公園管理について

■現 状

①指定管理者制度	10公園・緑地
②業務委託	20公園
③公園愛護会	約280公園・緑地
※管理する公園・緑地数	約470箇所

■管理運営について

<運営方法>

- ・10年連続で人口が増加、子育て世代も多く公園管理が重要と考えている。
- ・平成16年度から導入している、当初は有料施設管理公園3施設、現在10施設。
- ・市が管理するよりコストが抑えられる、管理運営の一元化も図られる。
- ・民間のノウハウを活用してサービスの向上に繋がる。
- ・市の使用料収入が見込める。
- ・有料施設管理公園の営業日が増えた。
- ・利用者が少ない時間帯にスポーツ教室等が開催できた、イベントも増えた。
- ・指定管理者が常駐している公園もありこれまで以上により良好な環境づくりになる。
- ・苦情・要望等に対して迅速な対応ができる。

<課題及び今後の方向性>

- ・一部の公園の利用料金制が最適とは感じていない、難しい所である。
- ・大きな不具合は感じていないが経費削減、利用者サービスの向上を引続きたい。
- ・新たに追加した7公園が半年過ぎた、利用者サービスの移行を注視したい。
- ・7公園の運営状況を見ながら、近隣公園(16ヶ所)への導入を検討したい。
- ・市内約470箇所の公園の利用者サービスのメリットに重点をおく。

■石ヶ谷公園視察

- ・公園区分；総合公園 面積；13.90(ha) 管理；指定管理者
- ・主な施設等：明石中央体育館(昭和56年建築)、公園駐車場350台、ウォーク&ランコース、馬場、放牧場、桜、梅園、大型複合遊具施設、ハーブガーデン、バーベキュー許可エリア等

<指定管理者の運営について>

- ・25施設を管理し、スタッフは正社員で運営している。
- ・スタッフが体操講師等を務め、企画から立案行っている(パンフ・案内チラシ・季節のイ

ベント等)。

- ・有料施設で発生した利用料金は市に納めている。
- ・市内の方・市外の方どちらも、同一利用料金で運営している(除く海浜プール)。
- ・常駐部隊が4名いて公園管理を行っている。
- ・有料施設利用収入が高い時のスタッフへのモチベーション向上にも応えている。

■公園愛護会

<現状及び課題について>

- ・約80公園で運営されている。
- ・昭和44年からスタートした。
- ・公園愛護会の活動は愛護会によって違っている。
- ・安全点検を通じて破損等の情報共有をしている。
- ・子ども達の見守りを通じて見守りのポイントの情報共有ができる。
- ・9団体が子ども会で運営しているが、活動の主体はほぼ高齢者である。
- ・作業負担を減らす為に、活動写真や作業日報を年間1回だけ市に提出してる。
- ・作業日報の記入内容も簡略化している。
- ・頻度は平均して月2回、だいたい10人前後が参加されている。
- ・メリット：日常管理をお願い出来るので公園が常に綺麗な状態が保たれる、地域の方が運営されているので、地域の情報が市に集約されやすい環境になっている。
市からの情報提供にも素早く対応してくれる。活動を通じて郷土愛が生まれている。
- ・デメリット：特には感じないが、責任感の強い愛護会の方が、まれに公園利用者に指導が行き過ぎる場面もある。(子供への注意など)

■インクルーシブ遊具について(視察なし)

- ・利用状況としては近隣の施設の方や障がい者団体等の方たちが利用している。
- ・保護者や介助者からは安全面がよく工夫されているとの声がある。
- ・今後、新設の計画はない。

■視察の所感

公園は、皆様のレクリエーション、コミュニティの場であり、人々の心を和ます木や花などの自然を育てる場所でもあります。また、避難場所にもなり、人々の生活の中でかけがえのない重要な施設です。明石市の公園運営の理念は、利用者サービスの向上を一番に考えていると強く感じた。公園管理は地域の皆の手でと言う、公園愛護会の活発な活動は30万人都市としては、地域愛を感じる。本市においても公園愛護会の設立については活動をしたい団体がいたら検討するが見解である。少子高齢化・人口減少の現状を踏まえながらも新設公園、公園改修等積極的に取り組んでいると思う、今後も公園管理を通して更なる市民サービスの向上を図ってまいりたい。

香川県坂出市（令和5年10月18日視察）

1. 市の概要

坂出市は香川県の中央部に位置し、市の中心部は海岸沿いの平坦部にある。かつては沿岸部に塩田も見られたが、塩業整理により廃止し、番の州工業地帯（造船業、化学工業など）、林田工業地帯（製造業、物流企業など）などが造成され、沿岸部には工業地帯が造成された。岡山駅まで鉄道で40分、高松空港まで車で30分と交通至便な地。面積92.49 km²、人口53,249人、財政力指数は0.85、経常収支比率90.3%である。住みよさランキング：総合421位

2. 視察テーマ「PFI方式を活用した学校給食センターの運営について」

・企業名は(株)坂出スクールランチパートナーズ 構成企業は6社である。

導入した経緯は学校併設の調理場の著しい老朽化。配管修理や故障した設備の更新に毎年多額の経費が掛かった。人員不足により調理員の確保が難しかった。また、年々委託金額が高騰し、1食あたりにかかる費用も上がっていた。

財政的な負担を少しでも軽くするため、PFI方式を含めた様々な手法を研究し、有効な方法で建設していくことを目指した。

校給食センターのPFI事業において、民間事業者の採算ラインは、1日当たり約4,000食であり、それに近い見通しであった。

PFI方式は市の財政負担額が約5.5%削減されるとの結果が得られた。民間業者の意向調査では、複数の企業に参加意欲みられ、競争環境が確保された。

PFIの課題としては15年と長期の契約の為、社会情勢の変化など事業者としっかりと協議する必要がある。契約時にリスク分担、対応方法の明確化が必要である。

PFIにおける事業者の提案としては2階からの見学コースの窓ガラスが斜めになっており子ども達の見学がしやすい作りになっている。おい窓があり、調理場の香りがかげる。調理実習室があり、料理教室として使用できるとの事。子どもの遊び場もある。緊急用のレスキュービークルが配備されている。

3. 視察の所感

・現在坂出市においては小学校の給食が無料化である。食材は入札による物資調達を行っている。調理は食品ロスが無いように芋やニンジンの川は使用しているとの事。栄養価も高いので見習いたい調理方法である。焼き魚も料理できる機器あり。PFI方式においては15年契約である。今後子どもの人口減少など不安要素がある中において対処（契約）が十分できているかは疑問である。当市においてもその点はしっかり監視すべき点である。

兵庫県明石市（令和5年10月19日視察）

1 市の概要

明石市は兵庫県南部の明石海峡に面する市である。兵庫県東播磨県民局に区分されており、2018年（平成30年）からは中核市となり、自らの権限と責任のもと、市民サービスのさらなる向上と、地域社会を生かした個性豊かなまちづくりに向け、諸施策に取り組んでいる。阪神と播磨、淡路との接点に位置するという恵まれた地理的条件を生かし、交通の要としての役割も果たしてきた。面積49.25km²、人口305,797人、財政力指数0.76、経常収支比率91.5%、住みよさランキング6位(関西版)

2. 視察テーマ「指定管理者及び愛護会における公園管理について」

明石市は子育て支援に力を入れておりその子育て世代に大切な公園にも力を注いでいる。指定管理はH.17より57施設に導入。指定管理にした目的は1. 市よりもコストが抑えられる。2. 民間業者のノウハウを活用。3. 使用料の収入アップ、サービスの向上が見込まれる事である。

一番大きい石ヶ谷公園を現地視察した。指定管理の提案としては会議室にガラス張りとしフローリングにしてヨガ等の新しい空間活用をした。ロビーに昆虫標本等の展示。スポーツ教室（初心者）と熟練者の方の教室を分けた。利用者のスポーツ教室の開催。80種類のハーブガーデンを造成。梅の摘み取りイベントの開催。野外活動広場でのポニーによる馬車の開催。第2第4日曜日も営業日にした。社員が常駐することで苦情、要望等がいち早く対応できるようになった。又、安全・安心の確保にもなる。スタッフを正社員化してレベルの向上を目指している。

公園愛護会の活動は簡単な清掃等をしている。地域のコミュニティーを育む場となっている。清掃によって公園利用者の増加、子どもや幼児が安心して遊べる。公園内のごみ捨てが減った。不審者が来なくなった等の効果がある。公園は「地域の財産」とも言われている。

3. 視察の所感

指定業者に委託することのメリット、デメリットを早期から把握していく必要がある。指定業者による提案による収益、設備投資等の負担をいかに両者でしっかりと取り決めていくのかが今後の課題でもある。

公園愛護会については高齢化が課題であるとの事。活動の継続の秘訣は活動予定を決める。地域の地縁団体と連携するとの事。いろいろな活動においては地域の地縁団体との連絡、連携が不可欠である。愛護会の活動も大事だが、当市においては公園指定業者の活用、採用の仕方に問題があり、明石市を参考にしていきたい。

建設文教委員会行政視察報告書

服部 龍一

期 間 令和5年10月18日(水)、10月19日(木)
視察先 香川県坂出市 坂出市学校給食センター
PFI方式を活用した学校給食センターの運営について
兵庫県明石市
指定管理者および愛護会における公園管理について

坂出市学校給食センター整備運営事業について

1.事業の概要

(1) 施設概要

建設地：香川県坂出市林田町 4285-234

敷地面積：約5000㎡

供給能力：約4000食/日

(2) 事業方式

事業方式は、事業者が施設を整備した後、市に施設の所有権を移転し、事業期間中における維持管理・運営業務を実施するBTO (Build Transfer Operate) 方式である。

(3) 事業期間

- ・施設整備期間 令和2年12月～令和4年6月(約1年6ヶ月)
- ・開業準備期間 令和4年7月～令和4年8月(約2ヶ月間)
- ・維持管理・運営期間 令和4年9月～令和19年7月末(約15年間)

2.事業契約者について

企業名：株式会社坂出スクールランチパートナーズ

【構成企業】

企業名	構成企業名	業務分担	役割
株式会社坂出 スクールランチ パートナーズ	(株) ジーエスエフ	代表	代表企業
	(株) 阿波設計事務所	設計・工事管理	構成企業
	サカケン(株)	建設	構成企業
	(株) 合人社計画研究所	維持管理	構成企業
	日本調理機(株) コーベフーズ(株)	調理設備 運営	構成企業 構成企業

3. PFIを導入した経緯は

・市の学校給食は、11の小中学校併設の調理場と1ヶ所の共同調理場で、市内6幼稚園、10小学校と5中学校の給食の調理や配送、食器の洗浄業務を直営及び民間委託(9カ所)で実施していたが、主

に下記のような課題が出ていた。

- (1) 学校併設の調理場は、古いものは昭和35年に建設されており、大半の施設が建設から30年以上が経過し、老朽化が著しかった。
- (2) 調理場は、「学校給食衛生管理基準」を満たしておらず、新しい給食施設の基準に適合するため、施設・設備の大規模改修を行わなければならなかった。
- (3) 正規職員の退職者不補充による民間委託を実施していたが、全ての自校方式の学校で民間委託を導入していく事も限界があった。その理由として、調理員の確保が難しい状況であり、さらに民間委託校を増やしていけば適切な人員が確保できなくなり、人員不足による辞退など、新たに委託していく事は困難であることが想定された。また、年々委託金額が高騰し、1食あたりにかかる費用も上がっていた。

・安心安全な学校給食を提供する観点から早急な建て替えが必要であり、平成29年10月に学校給食調理場町内検討委員会を立ち上げて、共同調理場を新たに建設するという方向性を出した。しかし、降雪により建設することは財政的に大きな負担となることから、財政的な負担を少しでも軽くするため、PFI方式を含めた様々な手法を研究し、有効な方法で建設していく事を目指して、平成30年にコンサル業者へ学校給食共同調理場整備検討業務委託を委託し、整備手法の検討を行った。

・調査報告を基に検討し、下記の利点が見いだせることから、PFI方式を導入することとなった。

- (1) 学校給食センターのPFI事業において、民間事業者の採算ラインは、一般的に1日当たり約4000食以上といわれていたが、実際の提供食数もそれに近い見通しであった。
- (2) PFI手法を導入して本事業を実施する場合は、従来方式と比較して市の財政負担額が約5.5%削減されるとの結果が得られた。
- (3) 民間事業者の意向では、学校給食センターPFI事業の実績を有する複数の企業に参加意欲が見られ、競争環境が確保される。
- (4) 給食業務に係るサービス水準・品質の向上
- (5) リスク分担の明確化による安定性の確保。

4.PFI方式を導入して、良かった点、課題となっている点は

<良かった点>

調理、施設管理棟専門業者への委託が一括して行えるため、業務ごとに委託検討を行わなくてよい。修繕の際にも、その都度、業者依頼や入札を行う必要がなく、市の事務作業が軽減される。施設の管理面において、専門業者による管理となるため、市職員のみでは把握しきれないポイントについても定期的に点検を行う事が出来る。

<課題>

契約内容が複雑かつ膨大であるため、実際の運用にあたっては、全体の把握に苦勞する。15年という長期の契約であるため、社会情勢の変化等があれば、事業者と協議する必要がある。リスク分担や、対応方法を契約の段階で出来る限り明確にしておく必要がある。

《所感》

今回視察を行った、兵庫県明石市においては、現在小学校の給食費の無償化を実現しており、現在のところ赤字となっている。しかしながら、地元の高校の食物科の生徒による、給食メニューの実習を行

ったり、地産地消への取り組みや、タブレットでの給食メニューの説明動画を配信するなど、多くの新たな取り組みをされ、子供たちからは、大変好評を得ていら。今後が大変楽しみである。本市においても新たに給食センターを新設する予定であるので、大変貴重な体験が出来た。





兵庫県明石市 指定管理者及び愛護会における公園管理について

明石市の概要

1972年に長期総合計画を策定して以来、計画的なまちづくりを進めてきた。2022年4月からは、「あかしSDGs推進計画」がスタートし、2030年のまちの姿を、「SDGs未来安心都市・明石～いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで～」と定め街づくりを進めていく。また、2002年4月に特例市（2015年4月からは施工時特例市）、さらに2018年4月からは中核市となり、自らの権限と責任のもと、市民サービスの更なる向上と、地域特性を生かした個性豊かなまちづくりに向け、諸施策に取り組んでいる。

人口約30万人で子育て世代の増加により、10年連続で人口の増加が続いている。その為にも公園も整備が必要と考えている。

明石市の公園管理運営方法について

管理運営方法	①指定管理者制度	10公園・緑地
	②業務委託	20公園
	③公園愛護会	約280公園・緑地
※管理する公園・緑地数		約470箇所

- ・平成18年～ 指定管理者制度 3施設からスタートし現在10公園が指定管理者制度として運営されている。
- ・メリットとして
 1. コストの削減が出来た。
 2. 民間のノウハウによるサービスの向上につながっている。
(第2、第4月曜も営業している)
 3. スポーツ教室やトレーニングルームを行っている。
 4. 石ヶ谷公園では、ハーブガーデンの提案また、25の教室が行われている。

公園愛護会の活動とは

公園愛護会活動は、国の施策により、昭和30年代より全国各地で創設され、明石市では、昭和44年に中度公園ほか13カ所の公園で初めて公園愛護会が誕生した。

市内には、小さな公園から大きな公園まで多くの公園があり、その管理は、公園管理者である市だけでなく、公園周辺の地域の方々の協力が必要である。公園愛護会の活動は、「公園のため」であるとともに「自分たちの住む街を地域のみんなで、きれいな場所にする」という街づくりの活動でもある。

1. 清掃について

いつもきれいな公園は、地域のみなさんのおしゃべりの場になったり、子供たちが遊びにやってきましたり、ベンチで読書をしたりと、地域のコミュニティを育む場となります。清掃によってきれいで安全な公

園が求められます。

2. 除草について

除草の一番の目的は、雑草を取り除くことで公園内の見通しを確保したり、公園の景観をよくすることです。また、害虫の発生を防ぐ事が出来ます。

除草を行うときは、かまや草削りなどを用いて、雑草を寝言取り除くのが基本です。機械を使つての作業は、効率的ですが、石飛などによるケガや、民家の窓ガラスの破損など危険性も非常に高くなります。

3. 水やりについて

水分は植物にとってかけがえのないものです。水が不足すると、枯死に繋がります。特に夏の日照りの多い時期には水やりが欠かせません植え込み地にて水やりを行う場合はホースなどで樹木を損傷しないよう、注意してください。

4. 安全点検について

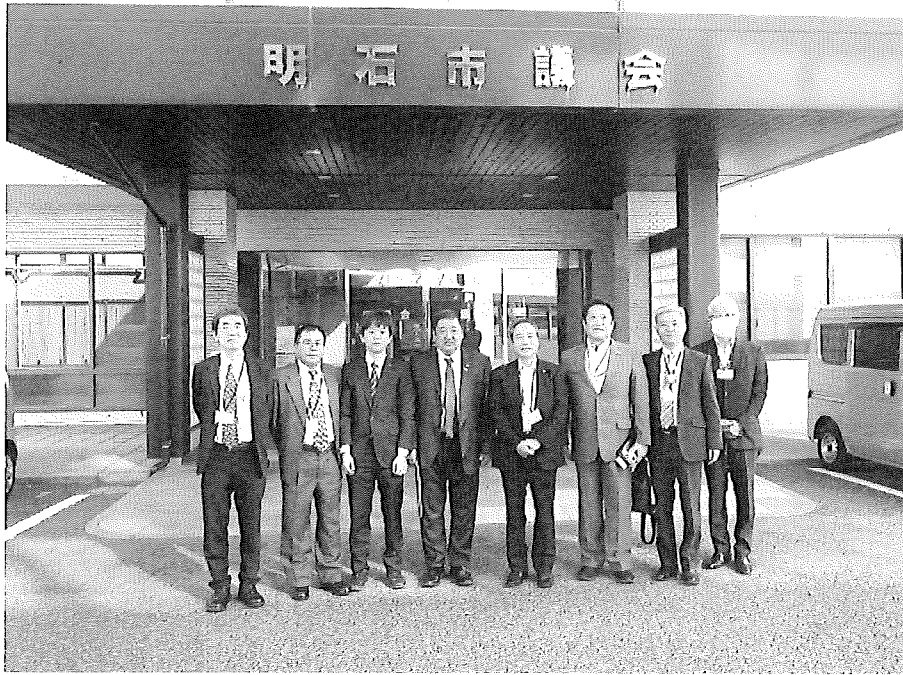
安全点検は、地域のみなさんが安全に公園を利用できるよう、事故等の発生を未然に防ぎ常に危険のない状態を確保するために行うものです。愛護会のみなさんが、日頃の活動の中で、遊具の簡単なチェックや子供の遊びを見守った頂きますよう、ご協力をお願いします。

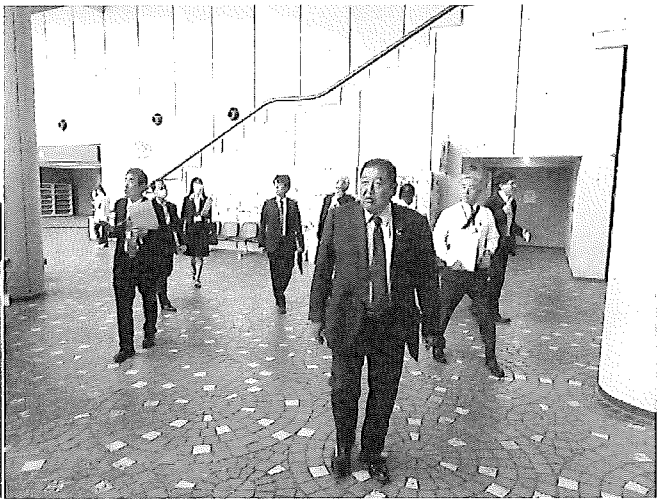
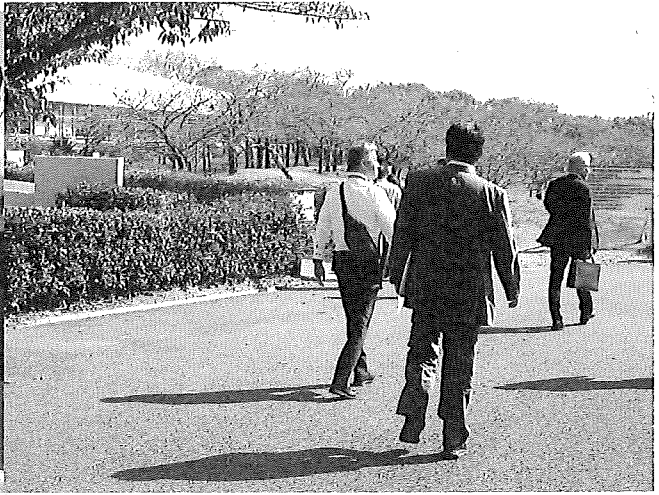
《所感》

今回視察した明石市の公園簡易では、本市に比べ、人口約30万人と規模が大きく公園の数も470カ所であり、また公園の中には、有料の体育施設やプールなどあまり本市の参考にならない部分もあったが、地域の公園の管理を、愛護会が行うなど先進的な事例も知る事が出来た。子育て世代が10年連続して増加している明石市では、公園の整備はもとより、全ての子供たちをまち全体で支える、という子供を核とした街づくりを展開している。明石市独自の5つの無料化として

1. こども医療費
2. 保育料
3. おむつ（宅配も）
4. 中学校給食
5. 遊び場

が掲げられている。今後の本市の施策に対して、大変参考になる視察であった。





建設文教委員会行政視察報告書

武谷 としお

期間：令和5年10月18日（水）、10月19日（木）

視察先及び視察項目

・香川県坂出市

PFI方式を活用した学校給食センターの運営について

・兵庫県明石市

指定管理者及び愛護会による公園管理について

香川県坂出市学校給食センターPFI方式を活用した整備運営事業について

1、事業の概要

(1) 敷地面積：約 5,000 m²

(2) 供給能力：約 4,000 食/日

2、事業方式

事業方式は、事業者が施設を整備したのち、市に施設の所有権を移転し、事業期間

中における維持管理・運營業務を実施する BTO（Build Transfer Operate）方式

3、事業期間

- ・施設整備期間：令和2年12月～令和4年6月（約1年6ヵ月間）
- ・開業準備期間：令和4年7月～令和4年8月（約2ヵ月間）
- ・維持管理・運営機関：令和4年9月～令和19年7月末（約15年間）

4、PFI方式を導入した経緯

- ・大半の施設が建設から30年以上経過し、老朽化が著しかった。
- ・調理場は「学校給食衛生管理基準」を満たしておらず、新しい給食施設の基準に適合するため、施設・設備の大規模改修を行わなければならなかった。
- ・調理員の確保が難しい状況で正規職員の退職者不補充による民間委託を実施していたが、年々委託金額が高騰し1食あたりに係る費用も上がっていた。
- 以下の利点が見いだせることからPFI方式を導入することとなった
- ・民間事業者の採算ライン約4,000食/日に近い見通しが立った。
- ・従来方式と比較して市の財政負担額約5.5%削減される調査結果が出た
- ・PFI方式の実績を有する複数の企業に参入意欲が見られ、競争が確保される
- ・給食業務に係るサービス水準・品質の向上
- ・リスク分担の明確化による安定性の確保
- ・市の事務負担軽減と給食事業の長期継続性の確保

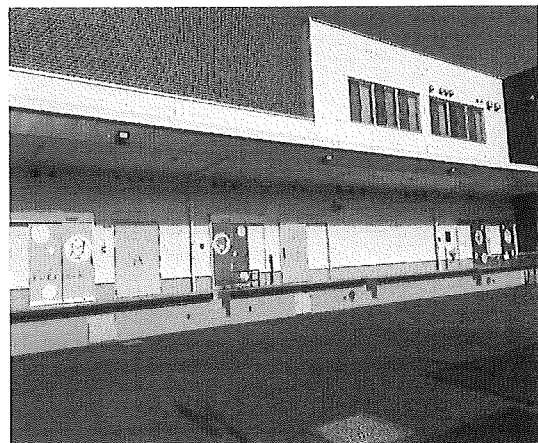
5、PFI方式を導入してよかった点、課題となっている点について

<良かった点>

- ・調理・施設管理等専門業者への委託が一括して行えるため、業務ごとに委託検討を行わなくてよい。
- ・修繕の際、都度業者依頼や入札を行う必要がなく、市の事務作業が軽減される
- ・施設管理面において、専門業者による管理となるため市職員のみでは把握しきれないポイントについて定期的に点検を行うことができる。

<課題点>

- ・契約内容が複雑かつ膨大であるため、実際の運用にあたって全体の把握に苦労する。
- ・15年の長期契約のため社会状況の変化（物価高騰による食材費や水道光熱費等）があった場合、事業者との協議が必要。
- ・リスク分担や対応方法を契約の段階でできる限り明確にしておく必要がある。

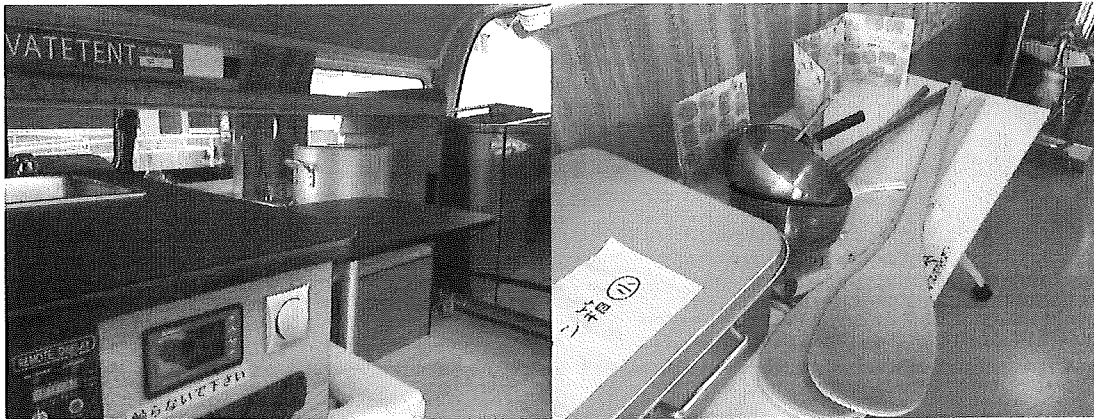


<所感>

子どもたちの給食を作るだけの施設ではなく、調理室を見渡せる見学スペースや会議室調理実習室、調理道具展示等子どもたちや保護者が給食に興味を持つことができる機能を持たせたことに、本市においてもぜひ取り入れていただきたいと感じた。

また、食材の納品から調理・配送まで一方通行でおこなうなど、徹底した衛生管理が行われている現場を見ることができ大変勉強になった。

自走式災害救援車レスキューフードビーグルの展示があり、給食センターの備蓄食材を利用しての災害支援とのことでしたが、本市において導入したいが費用・管理運営等今後研究および調査課題としたい。



兵庫県明石市指定管理者及び愛護会における公園管理について

1、主な視察内容

公園管理を指定管理者にする理由や愛護会組織について学ぶ

2、指定管理者が管理する公園について

- ・適切な人員管理・業務を着実に実施するための運営体制が整っている。
- ・これまでの民間ノウハウに基づくニーズに合った企画提案やイベントなど提案事業が盛んにおこなわれ、施設のさらなる利活用や公園の賑わいづくりにつながることへの期待。
- ・これまでの経験値でスケールメリットを生かした維持管理ができる。
- ・民間の収支計画に基づき、コストや収入など詳細な積算が行われ、実施事業収入の増加、事業充実による市民サービスの向上も期待できる。



3、明石市公園愛護会について

- ・明石市には市内の公園や緑地で約 280 の公園愛護会が清掃や除草などの維持管理を行っている。
- ・公園愛護会の活動は「公園のため」であるとともに「自分たちの住む街を地域のできれいな場所にする」という住みやすい地域活動やマナーの向上に寄与している。
- ・メリットとしては「日常的に管理をしているためいつもきれい」「地域代表者」として市が地域の情報共有をしやすい。
- ・「公園愛護会マニュアル」が策定されていて活動内容からルール、Q&A や報償費など詳しく記載された冊子が製作されている。



<所感>

大規模な総合公園と小規模な街区公園を見学したが、樹木や施設の管理が行き届いていた。指定管理制度と公園愛護会ともに機能している。本市においての小規模街区公園は子ども会や町内会等が清掃活動など行っているが、年々清掃活動への参加人数が減少している。公園愛護会の仕組みを本市に適用するには、地元団体との意見調整をしっかりと行うことが必要であると考えた。

また、体育会館の指定管理者が行う事業はかなり自由度が高い（貸室やホールの開放など）本市においても取り入れてみてはどうかと感じる事業が多々あり、順次提案をしていきたい。



令和5年度 建設文教委員会 行政視察

実施日 令和5年10月18日(水)・19日(木)

視察先 香川県坂出市・兵庫県明石市

出席者 いとうひろし委員長 鈴木智和副委員長

こんどうのぶお 服部龍一 武谷敏夫

毛受明宏 清水義昭

議会事務局 経済建設部長(明石市のみ)

毛受明宏

香川県坂出市【PFI方式を活用した学校給食センターの運営について】

坂出市で「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」⇒PIF法に基づき「坂出市学校給食センター整備運営事業」について、民間事業者を選定する公募型プロポーザルを実施

令和2年10月学識経験者等で構成するPFI事業者選定委員会し、優先交渉権者を決定⇒令和2年坂出市議会12月定例会において契約の議決

事業概要として

(1) 施設概要 坂出市学校給食センター整備運営事業

建設地：香川県坂出市林田町 4285-234

敷地面積：約 5,000 m²

供給能力：約 4,000 食/日

(2) 事業方式

事業者が施設を整備したのち、市に施設の所有権を移転し、事業期間中における維持管理・運営業務を実施する BTO (Build Transfer Operate) 方式

(3) 事業期間

施設整備期間は令和2年12月～令和4年6月(約1年6か月間)

開業準備期間は令和4年7月～令和4年8月(約2か月間)

維持管理・運営期間は令和4年9月～令和19年7月末(約15年間)

事業構成として

企業名：(株)坂出スクールランチパートナーズ

業務分担として代表・設計工事管理・建設・維持管理・調理設備・運営と役割を決めて運営

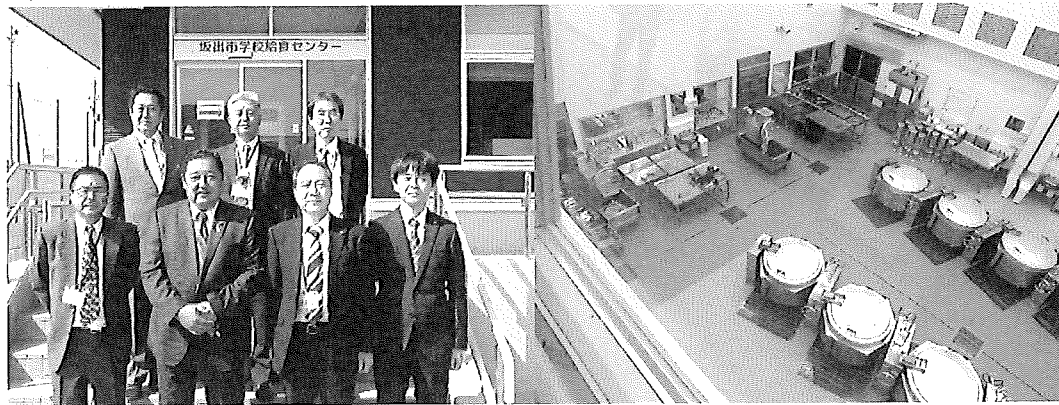
まとめ

立地としては準工業地域で旧塩田跡地に建設されているので、臭いなどの公害苦情は無さそう。

給食費は幼稚園 226 円・小学校無償(250 円)・中学校 285 円でどちらかと言うと赤字が多い。

給食は坂出市の近隣高校とコラボレーションをして献立を決定する日もある。その場合、生徒たちの発想を優先し、原価計算はされていない。給食費としては高めになることもある。

今後、その費用については市の会計で検討を進めることになる。



感想

豊明市においても同様な新給食センター運営を控えるが、土地の用途は準工業地域を予定しているが、今後も近隣住民の意見をお聞きし、健全運営をお願いしたい。

元々評判のいい給食の提供と聞いている。食についても学習の一つと捉え、今後研究を進めて欲しい。

兵庫県明石市【指定管理者及び愛護会による公園管理について】

明石市都市公園条例に基づき、「公の施設」である石ヶ谷公園ほか公園・緑地について、令和5年4月1日から指定管理者による管理運営を行うため、次のとおり、指定管理者の指定に係る手続きを進め、指定管理者候補者を選定した。

指定管理者の指定に際しては、議会の議決を経る必要がある。

指定管理対象施設及び指定期間

(1) 名称・所在地

- ①石ヶ谷公園 ②明石海浜公園 ③魚住北公園 ④明石北わんぱく広場 ⑤高丘東公園
⑥高丘西公園 ⑦西二見公園 ⑧西二見緑地 ⑨南二見東緑地 ⑩南二見西緑地

(2) 指定期間 令和5年4月1日から令和10年3月31日

2 指定管理者候補者

(1) 団体名 しんきパーク&スポーツマネジメント共同事業体

(代表者) 神姫トラストホープ株式会社

3 指定管理者が行う業務

- (1) 石ヶ谷公園ほか公園・緑地の利用及びその制限に関する業務
(2) 石ヶ谷公園ほか公園・緑地の使用料の徴収、還付及び減免に関する業務
(3) 石ヶ谷公園ほか公園・緑地の維持管理に関する業務
(4) その他石ヶ谷公園ほか公園・緑地の管理運営に必要な業務

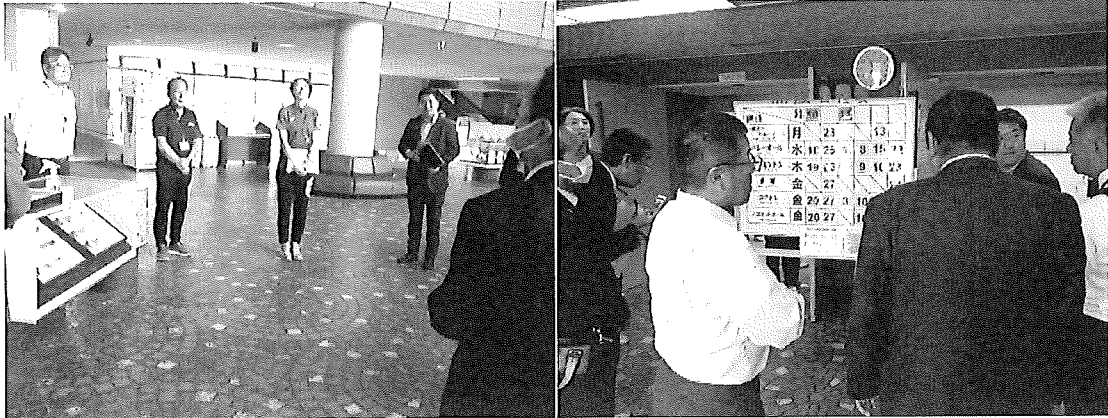


明石市公園愛護会

明石市は、昭和44年より忠度公園ほか市内13箇所の公園で公園愛護会が誕生し、市内大小の公園の管理は、公園管理者にみでなく、公園周辺の地域の皆様の協力より協力を得て管理を進め公園の財産価値を高める活動を行っている。

公園愛護会の皆様は「公園のため」であるとともに「自分たちの住

むまちを地域の皆様の方で、きれいな場所にする」というまちづくりを目標に活動を進めている。



まとめ

指定管理の内容としては、公園・緑地の利用及びその制限に関する業務、使用料の徴収、還付及び減免に関する業務、維持管理に関する業務、緑地の管理運営に必要な業務と豊明市の指定管理と同じような内容。

感想

豊明市の規模より大きな公園とその数を運営されている。

私が聞きたかった内容としては 1 年を通して地域(明石市で言うと公園愛護会)と指定管理者の管理時期の調整でした。

豊明市の場合、指定管理が始まって 2 年余となるが、地域と指定管理者の手入れ時期の調整が行き届いていないことに気付く。

公園利用は地域の住民であり、公園に対する愛情も指定管理者には無い気持ちが地域には必要と思う。

今後、豊明市の指定管理者と地域がどの様に対話し、より良い公園の環境づくりは大切と感じる。

令和5年度 建設文教委員会行政視察報告

令和5年11月14日

清水 義昭

日付：令和5年10月18日（水）

場所：香川県坂出市（坂出市学校給食センター）

項目：PFI方式を活用した学校給食センターの運営について

○主な視察内容

- ・学校併設の調理場は、大半の施設が建設から30年以上が経過し、老朽化が著しい
- ・調理場は学校給食衛生管理基準を満たしておらず、新しい給食の基準に適合するためには、施設や設備の大規模改修を行わなければならない
- ・自校方式にて民間委託を続けるための調理員の確保が難しいうえ、委託金額の高騰で1食あたりに係る経費も上がっている

上記の理由から、本事業を行うこととした。概要は、

- ・給食調理場を市内1箇所に集約しPFI方式とした

である。主な特徴は、

- ・市内小中学校や幼稚園向け給食をセンター1箇所で調理
- ・もともと市の土地である埋立地にセンターを建設
- ・採算ラインと言われる1日あたり約4,000食に近い提供食数
- ・センター内に備蓄倉庫を設け防災拠点の一部として活用
- ・災害時に炊き出し等を行う車両を導入

である。本事業により得られた成果は、

- ・設置コストは市の財政負担が約5.5%削減された
- ・自前で炊飯が可能となったことが好評なうえ米飯購入費が削減した

- ・市内高校と連携し献立の作成や食育に取り組むことができている
- ・見学通路から調理場を望むことができるようになった
- ・一括調理により食材の廃棄が少なくなった

である。

○所管

自校調理方式からPFI方式を活用した一括調理方式に切り替えた先進事例であり、設置にかかるコストや、人材不足に対応できる等メリットはあると考える。導入に際し近隣住民と臭気対策等の説明会を複数回開催する等見習うべき点は多い。

しかしながら、調理時間や人件費の削減については、社会状況の変化の影響が大きいことを理由に未検証である点や、光熱水費、食材費高騰による負担割合について、今後事業者と協議を行う等、未知数な点もある。

一括調理方式は、機器の故障や食中毒等不測の事態が生じた際には被害が拡大する懸念もあり、本市において本方式を採用するかについては、慎重に検討する必要がある、と考える。

日付：令和5年10月19日（木）

場所：兵庫県明石市（市役所及び各公園）

項目：指定管理者及び愛護会による公園管理について

○主な視察内容

- ・市内の公園数は県内4位の約470箇所であり、過去10年間で60箇所増加している
- ・子育て世帯の転入が多く市内の人口が増加している
- ・子育て環境充実のため公園整備が必要と考えている

上記の理由から、本事業を行うこととした。概要は、

- ・海岸を含め11の公園等施設を民間による指定管理とした
- ・約280施設を市民らで構成される公園愛護会にて管理することとした

である。主な特徴は、

- ・業者による指定管理は専門分野の異なる4社にて行う
- ・指定管理料は合わせて年間約2.4億円
- ・自治会や子ども会が主体となり構成される公園愛護会にて公園を管理
- ・公園愛護会による管理は主に清掃や除草
- ・公園愛護会への報償費は1公園あたり年間平均約3.8万円を支給

である。本事業により得られた成果は、

- ・指定管理者のノウハウや営業日の拡充により有料設備の利用が増え、市への使用料収入が増加した
- ・管理主体により常に清潔に保たれるため、利用のマナーも良くなった
- ・公園愛護会活動により地域のつながりや郷土愛が強くなった

である。

○所管

有料施設のある規模の大きな公園等施設を、指定された業者に管理をお願いすることで、使用料収入の増加をもたらしていることについては非常に興味深い。4社がそれぞれの専門を活かし協業することによる副次的効果も得られている。

公園愛護会については、主に地域の団体にて構成されるため、地域のつながりが構築されることの意義は大きい。会に向けたマニュアルもしっかりと整備されていることから、活動しやすい環境が整っている。

本市においても指定管理業者と地域による施設管理の線引きをはっきりさせる必要があると思っはいるが、共働きの増加や価値観の多様化、高齢化等の課題を洗い出したうえ検討に入る必要がある、と考える。